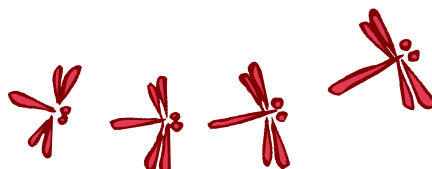


ホームページ <http://www.yamada-kousaku.com>

「赤とんぼ」のまち 茅ヶ崎  
没 40 年「山田耕筰」を讃える会 ニュース



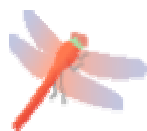
発行：「赤とんぼ」のまち茅ヶ崎・没40年「山田耕筰」を讃える会

会長：土井 泰彦

事務局：茅ヶ崎市東海岸北2-6-26 電話 090-9314-4521 FAX 0467-82-3342

メール：info@yamada-kousaku.com

## 没 40 年「山田耕筰」を讃える会 設立



作曲家山田耕筰氏が没し、今年  
は 40 年という節目の年にあたります。

氏は傷心の中、茅ヶ崎市に愛児ら家族と  
移り住み、茅ヶ崎市の自然と家族愛に心癒  
され、赤とんぼを始め多くの曲が作曲され  
ました。氏の再起の原点となった茅ヶ崎の  
自然と家族愛を通し、”文化とまちおこし”  
を行う市民活動として平成 16 年 11 月に  
“没 40 年「山田耕筰」を讃える会”を発  
足いたしました。

以前より”「山田耕筰」と「赤とんぼ」を  
愛する会”が市民団体として活動していま  
す。今年、氏が没し 40 年という節目の機  
会に、より大きな輪をつくり市民活動を行  
うためにと同会を中心に、山田耕筰氏の長  
男の山田耕嗣氏を顧問とし、文教大学元教  
授の土井泰彦氏会長をはじめとする組織体  
制を整え活動を開始致しました。

当会の事業の柱として「没 40 年記念音  
楽祭」を 11 月 23 日（水曜・勤労感謝の  
日）茅ヶ崎市文化会館大ホールにて開催を  
予定しています。

また、広報活動、小冊子の発行、記念碑  
の建立なども計画しています。

当会の目的である”茅ヶ崎市の文化とま  
ちおこし”のため、当会独自の活動だけに  
止まらず、商店、団体や市民の方々と連携  
協力し「赤とんぼ」をアレンジした商品や  
イベントなどを盛り上げる事も重要な活動  
としています。



来年は山田耕筰生誕 120 年、再来年は”赤とんぼ”の曲、茅ヶ崎で生誕 80 年と続きます。当会は、会の名称から”没 40 年”を削除するなどし、来年以降も存続することを目指しています。



## 茅ヶ崎の山田耕筈

山田耕筈氏は茅ヶ崎から東京へ向う列車の中で「赤とんぼ」の曲を作曲した。その頃の氏の気持ちが伝わる童謡百曲集の解説である。

～～ 童謡百曲集解説より ～～

争闘の渦を逃れて松翠香る茅ヶ崎の砂丘に愛児らと心ゆくまで遊び戯るとき、月夜遠浪の音に聴かれて茅屋のヴェランダに仰臥するとき、煩忙な、あまりにも煩忙な公的生活によって阻まれていた私の創作意は、私の過去の生活に於てかつて味解し得なかつた清澄な心情と静寂の聖座にぬかづく心とに促されて、生々として萌え出づるのであります。

晴朗な湘南茅ヶ崎の大气。その晴朗な大気と愛児らの素純。それこそは私の胸底に徒らなる永き眠りを強いられていた「歌」に、朗らかな暁の光を点じたのであります。

実にこの曲集は私一生の深き思い出となるばかりでなく、私をして過ちなき路を辿らしめた貴き友であるといはねばなりません。私にとって感謝の歌であり、また凱旋の歌でもありません。

私は今、此の曲集を祖国の父と母に、姉と妹に、そして愛するコドモに贈るにつけても、切に希ふ。――兒らの愛によって生まれ出でしこの「父の歓喜の歌」をして、兒らの心に培はしめ、更にその果実をして世の多くの悩める父の心を慰め、くもれる母の胸を照らさしめ給えと。

昭和二年四月三日

茅ヶ崎南湖の居にて

耕作

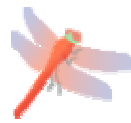
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

日本交響楽協会が分裂、失意の中、茅ヶ崎に移り住み、愛児と過ごしたこの茅ヶ崎の自然

が、再び山田耕筈氏の創作意欲を蘇らせたという事実である。

80年ほどが過ぎた現在、茅ヶ崎の自然は今でも当時の力を持っているのであろうか。80年間という時間の中で当時の愛児は、こころ豊かな80代を迎えられ、この茅ヶ崎で暮らしているのである。

この解説は、過去から現在の茅ヶ崎に在住する人々へのメッセージである。



## 近所の山田耕筈

多くの校歌を作曲しているが、近くでは、藤沢市の県立湘南高校の校歌が氏の作曲である。また、大岡越前を縁として茅ヶ崎市とゆかりの町となっている愛知県岡崎市の市歌もまた、山田耕筈氏作曲である。



## 世界の山田耕筈

日本初の、世界的水準に立つ作曲家。交響曲や交響詩、近代声楽曲やオペラを日本人として初めて作曲し、欧米にも高く評価されている。作品は後期ロマン派風の書法で書かれており、作品数は極めて多い。「この道」「私たちの花」など、美しい旋律を持った歌曲は教科書にも登場しているため、一般にも馴染みが深く、また指導者としても、日本の楽壇の向上に多大に貢献した。

1908年東京音楽学校声楽科を卒業。ベルリン音楽大学に留学し、14年に帰国し、演奏会を開いて自作の交響曲を披露。翌年にそのメンバーで東京フィルハーモニー交響楽団を創設させ、日本の交響楽運動の基礎を築いた。その後25年には、現在のNHK交響楽団の前身である日

本交響楽協会も設立。また、日本楽劇協会を組織し、オペラ運動も行った。

ヨーロッパ、アメリカ、ソビエトなどで自作の指揮を行うなど活発な活動を続け、その功績に対して、日本の文化勲章はもとよりフランスからもレジオン・ド・ヌール勲章を与えられている。



### ビデオ貸出 山田耕筰と茅ヶ崎

昨年末、茅ヶ崎市の広報番組にて、『響け「赤とんぼ」のうた 山田耕筰と茅ヶ崎』という15分間の特集番組が放送されました。山田耕筰と茅ヶ崎の関わりが分り易く美しく凝縮されています。茅ヶ崎市の公聴広報課より貸し出されています。



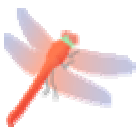
### 「山田耕筰」と「赤とんぼ」を愛する会 茅ヶ崎市社会教育委託 公開講座&らららライブ

昨年12月より3回シリーズとして茅ヶ崎市社会教育委託公開講座が開かれています。テーマは1回目「山田耕筰の生涯と功績」、2回目「山田耕筰の作品について」、3回目「茅ヶ崎と山田耕筰作品の作詞者たち」です。1回目150余名、2回目120余名という盛況な会となりました。市の広報番組「響け「赤とんぼ」のうた 山田耕筰と茅ヶ崎」には、この講座1回目の会場風景が使われています。

3回目最終会3月26日(土)には、文芸評論家尾崎氏政雄氏が、山田耕筰氏と当時を直接知る者として話をされました。参加者は、その時代にタイムスリップようでした。

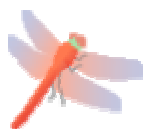
3月4日、翔の会主催のユニバーサル音楽祭らららライブに、会員有志がステージ出演しました。テーマは、「みんなで歌おう赤とんぼ」

の歌。



### 情報提供のお願い

山田耕筰氏が茅ヶ崎市に住んでいた時の情報を収集しています。年月の中で風化してしまう前に、記録に残しておきたいと思います。☆情報提供は、事務局または会員にお願い致します



### 賛助会員募集のお願い

賛助会員になられた方には、会の情報などをお送りします。必ず振り込まれた方の名前と住所を事務局に連絡をお願い致します。

★個人会員：一口 3千円より

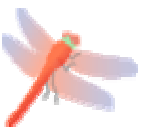
★法人会員：一口 1万円より

★郵便振替の払込み先

口座番号 00240-4-111095

「赤とんぼ」のまち茅ヶ崎・

没40年「山田耕筰」を讃える会



### 作って！ 赤とんぼの饅頭

和気あいあいとした当会の立ち上げ途中から、楽しい可笑しいアイデアがたくさん出ています。実現可能そうな物のひとつに”赤とんぼ饅頭”があります。

誰か作って下さい。そして、儲かったら、一部を当会に寄付してください。



当会の趣旨に沿うものを掲載しています。内容については、開催団体にお問い合わせ下さい

開催日	イベント名称	内容	開催場所・問合せ先
3月26日 (土) 2時より	茅ヶ崎市社会教育委託公開講座 茅ヶ崎と山田耕筰 その3 茅ヶ崎と山田耕筰作品の作詞者たち	講演 文芸評論家 尾島政雄 & {みんなで歌おう} 山田耕筰氏の作品の合唱	茅ヶ崎市分庁舎6F コミュニティーホール 主催 茅ヶ崎市教育委員会 「山田耕筰」と「赤とんぼ」を愛する会 問合せ 田中敏子 TEL 0467-52-6184 三日市孝子 TEL・FAX0467-86-3763 mikkaichi@nifty.com
6月18日(土)	本田竹広 ギャラリーコンサート	ジャズピアニストとしては致命的な、左半身不随、週3回、1回4時間の透析を続けながら奇跡の復活を遂げたジャズピアニストが弾く山田耕筰作曲「赤とんぼ」は、病にくじけそうな現代人の命をよみがえらせる希望の光	ハスキーズギャラリー 0467-88-1811 <a href="http://www.huskys-g.com/">http://www.huskys-g.com/</a>
6月19日 (日)~26日 (日)	森上義孝 ふるさとの自然と赤とんぼ展	山田耕筰が愛したトンボが舞う茅ヶ崎の自然。昆虫と鳥、野草との共生を考える茅ヶ崎在住のナチュラリスト・イラストレーターの作品展	ハスキーズギャラリー 0467-88-1811 <a href="http://www.huskys-g.com/">http://www.huskys-g.com/</a>
11月23日 (水) 勤労感謝の日	没40年山田耕筰を讃える会 記念音楽祭	茅ヶ崎市の心の財産、山田耕筰氏を讃える音楽祭	茅ヶ崎市市民文化会館大ホール 主催 没40年山田耕筰を讃える会